

公益財団法人 檉の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 25 日
② 法人・団体名	一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク		
③ 団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	埼玉県さいたま市浦和区高砂		
③ 責任者氏名	土屋 匠宇三	(役職名等)	代表理事
④ 担当者氏名	竹林 志保	(役職名等)	本部事務担当

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R07-011	⑦助成金額	147 万円	⑧申請カテゴリー	DS
⑨奨学活動名	生活困窮世帯への学習支援における支援者向け研修				
⑩主な実施場所名・及びその住所	さいたま共済会館、事務所（さいたま市・上尾市・春日部市・秩父市・越谷市・本庄市・狭山市・坂戸市・久喜市）				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

令和 7 年度の生活困窮世帯への学習支援における支援者向け研修を以下のとおり実施した。

- ・全学習支援員を対象とした全体研修 4 回
- ・新任支援員を対象とした新任者研修 1 回
- ・ボランティアを対象としたボランティア全体研修 1 回
- ・学習指導員を対象とした学習指導員全体研修 1 回
- ・各事務所の自主企画による研修 27 回

毎月、分科会を開きテーマを検討、テーマに合わせて各研修の実施形態を工夫し、内外の講師を駆使してテーマを深掘りした。外部の専門家を講師とすることで学習支援活動に対する視野も開け、参加者の関心も高まり、目的意識をもった研修要望も具体的に提案できるまでに成長した。いずれの研修も日頃の支援現場での実践に直結するものであった。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等				
高校生等				
大学生等	2,545	2	5,090	年間 3393 人/12*9 (7～翌 3 月)
学習支援員等	19,384	2.5	48,460	年間 25845 人/12*9 (7～翌 3 月)
その他	2,765	2	5,530	年間 3686 人/12*9 (7～翌 3 月) 社会人ボラ
合 計			59,080	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：生活困窮世帯への学習支援における支援者向け研修

法人・団体名：一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク

作成者 氏名：竹林 志保

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

生活困窮世帯等の子どもへの学習支援事業を受託する団体として、支援するスタッフの資質向上を目的とした研修を開催してきた。当初、現場で実務を担っている学習支援員自身が研修を組み立てていたが、企画力を高めるには資金・時間の物理的な限界があった。助成金を活用することで外部講師を招聘、より専門的な研修の実施と研修コーディネーターの設置を実現することができ現在に至っている。

今年度助成期間中に実施した研修は、「2. 実施した奨学活動の詳細」のとおり。

2. 実施した奨学活動の詳細

【学習支援員全体研修】

実施日	研修名	プログラム	講師	備考
2025/4/1	第1回 全体集会	法人と事業を理解する	代表理事・事務局長・支援員	県社会福祉課ご挨拶
2025/9/8	第2回 全体研修	教育政策・学校現場を知る	大学教授・現役中学校教員	
2025/10/22	第3回 全体研修	子どもたちに寄り添う支援とは	学識者	不登校の子どもたちを支える
2026/3/5	第4回 全体研修	ハラスメント研修	弁護士	



【学習指導員全体研修】

実施日	研修名	プログラム	講師	備考
2025/6/29	学習指導員研修	法人の理念、活動事例	代表理事・支援員・指導員・アスポート卒業生	学習指導員は約100名 当日参加できなかった指導員は後日各センターで研修動画を用いてフォロー研修実施している

2025年度（令和7年度）アスポート学習支援員研修

研修員のアスポート学習支援員は、生活困窮世帯の子どもたちを支援するために、今年度も研修を実施いたします。今年度も研修員は、研修員としての役割を担い、ご参加ください。

研修日程 2025年6月29日（日）13:30～16:30

会場 埼玉教育会館 201・202会議室
（山手地区、山手駅より徒歩10分）

お申し込み 各センターの学習支援員研修申込書または本館と本部まで

お問い合わせ先 アスポート学習支援
本部 048-831-2688（担当：山崎）

研修内容の詳細は、研修員へご確認ください。

研修内容（文庫）

13:10 開場

13:30 子どもから学ぶ「アスポート」の役割について（講師：代表理事・事務局長）

14:00 学習支援員さんとの連携で支援活動の事例（講師：代表理事・事務局長）

14:30 アスポート卒業生の声

14:40 休憩

15:00 学習支援員さんの役割

15:20 質疑応答

16:10 研修動画

16:20 閉会式、アンケートの記入

16:30 終了

休憩時間、おしるしは研修員の席に、学習支援員出勤記録とアンケートを記入のうえお持ち帰りください。

お持ち帰りの研修動画は、お持ち帰りください。

一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワーク

住所：さいたま市東区東馬場3-7-2 2階（アスポート）
電話：048-831-2688
E-mail: info@nissai-net.jp
HP: https://nissai-net.jp/

【センター別研修】

センター	実施日	研修名	講師	参加者（人数）	その他
白岡	2025/6/6	「通信で学ぶ高校生 ～制度の概要と支援について」	林支援員	7（センタ全員）	
白岡	2025/6/20	「個人情報保護について」	小池支援員	7（センタ全員）	
越谷	2025/6/26	「奨学金制度について」	沖田支援員	12人（越谷センター＋三郷見守り）	
越谷	2025/11/21	「発達障害について」	小室友紀子氏（東京都立特別支援学校教諭）	19人（越谷センター＋三郷見守り）	チューター、指導員、ボラも参加
上尾	2025/5/21	「奨学金について」	村田支援員	13人（センター全員）	
上尾	2025/6/18	「生活保護制度について」	高木支援員	13人（センター全員）	
上尾	2025/7/16	「教材研究（英語）について」	和田支援員	13人（センター全員）	
上尾	2025/8/6	「特別な教育的ニーズのある子どもの問題」	児嶋芳郎氏（立正大学社会福祉学部教授） 須藤支援員	13人（センター全員）	
上尾	2025/10/1	「スクールソーシャルワーカーの現場」	高嶋陽子氏（桶川市SSW）	13人（センター全員）	
上尾	2025/11/12	「子どもへの理解と子どもにかかわる大人たちの課題」	北風菜穂子氏（大東文化大学文学部教育学科講師）	13人（センター全員）	
上尾	2025/12/10	「訪問から学習支援につなげるには」「教室運営について」	三好支援員・沢井支援員	13人（センター全員）	
上尾	2026/3/11	「1年間の振り返り」（リハセンの報告など）	小村方、町田、神山支援員	13人（センター全員）	
秩父	2025/7/12	救急救命講習	秩父消防本部職員	5人（センター支援員全員＋ボランティア1名）	
秩父	2025/9/24	「WISCとは何か？」	秩父市福祉部子育て支援課 金子重美氏	4人（センター支援員全員）	
狭山	2025/12/10	「ひきこもり支援について」（子家庁アウトリーチ研修受講報告）	大野支援員	9人（狭山センターにて1名欠席）	
狭山	2025/12/24	「虐待防止について」（虐待防止学会フォーラム参加報告）	麻野支援員	9人（狭山センターにて1名欠席）	
狭山	2026/1/14	「発達障害の支援について」	池田支援員	9人（狭山センターにて1名欠席）	
狭山	2026/1/28	「奨学金制度について」	渡辺支援員	9人（狭山センターにて1名欠席）	
坂戸	2025/6/18	救急救命 youtube	鶴ヶ島消防youtube	7人(6月時坂戸センター全員)	
坂戸	2025/7/16	怪我の応急処置	鶴ヶ島消防youtube	7人(7月時坂戸センター全員)	
狭山	2026/2/25	「傷つきやすい子どもとの接し方について」	磯崎支援員	9人（狭山センターにて1名欠席）	
春日部	2026/1/27	「子どもと関わるときに活かす」CAREプログラムの視点	さいたま市北部児童相談所 阿部みか	7人（春日部センターにて6名全員 白岡センター1名）	
本庄	2025/6/20	「奨学金制度について」	越谷センター沖田支援員	9名（支援員全員）	
本庄	2025/7/18	「救急救命講習」	児玉郡市広域消防本部職員	11名（支援員9名全員、見守り支援員1名、チューター1名）	
本庄	2025/8/20	講演会「睡眠リズムと不登校-子どもの未来が閉ざされないために-」	志村哲祥氏（東京医科大学睡眠学講座教授）・矢澤給美理氏（睡眠リズム障害患者会理事）・深澤思乃氏（睡眠リズム障害患者会副理事）	87名（本庄センター支援員9名、秩父センター支援員4名、浦和本部6名、見守り支援員7名、チューター3名、指導員3名、ボランティア3名、一般・その他参加者52名）	一般客にも向けて実施、樫の芽会担当者来場、ケーブルテレビ取材
狭山	3月25日	「ひきこもり支援における訪問支援～支援者のマインドと実践」 「訪問や自立に向けた働きかけをするための具体的な工夫とその狙い」	NPO法人青少年自立援助センター 菅野氏、小林氏、金島氏	10人（狭山センターにて、支援員8名、ボラ2名）	
狭山	3月4日	SSWの役割と現状	細内チューター（元入間市SSW）	9人（狭山センターにて1名欠席）	



【ボランティア全体研修】

実施日	研修名	プログラム	講師	備考
2026/3/15	ボランティア研修	ボランティア交流会	代表理事・副統括責任者・ 支援員・ボランティア担当 (本部・センター)	ボランティア登録者は年間約700名 性質上研修参加は30名程度にとどまる 参加者の内訳は、社会人ボランティア75% 学生ボランティアが25% 当日参加できなかったボランティアには後 日各センターの教室でフォローしている



【外部研修】

主に国・県および関連団体で主催する研修を多数利用している。(原則無料の研修)

檜の芽会の支援開始以降、会費・宿泊費・交通費が発生する大掛かりな研修にも意欲的に参加している。

実施日	研修名	主催	備考
2025/11/8～9	第12回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会	一般社団法人 生活困窮者自立支援全国ネット ワーク	滋賀県
2025/11/15～16	日本子ども虐待防止学会第31回学術集会ほか いどう大会	日本子ども虐待防止学会	北海道

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

① 学習支援員全体研修

令和6年度に引き続き助成金を活用することで、社内に研修コーディネーターを置いて安定的かつ外部講師を招いての専門的な研修を実施することができた。令和7年度は外部の視点や助言の重要性を認識した支援員自身がテーマを決め、良質で濃い内容の研修になった。

② 学習指導員全体研修

学習指導員は基本的に元教員が担っており、学習教室で高い専門性をもって勉強を教えている。教室における終わりのミーティングも毎回丁寧に行った上で、子どもとの関係性を育み学力を向上させている個々の指導員の事例や情報を教室を越えて全体で共有し、活動の意義を再確認し、やりがい分かち合う場として全体研修が機能している。

比較的高齢者が多いので暑い時期を避けて日曜日に開催している。

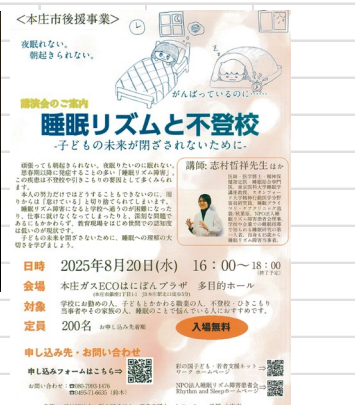
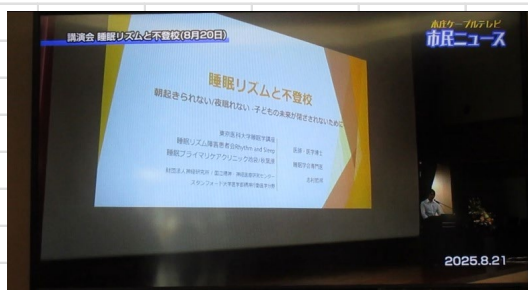
③ センター別研修（自主企画）

センター別研修は、全体研修では取り上げることができなかったテーマや、より支援員のニーズに近いテーマを学ぶ機会を創出した。助成金があることで今までできなかった自主企画枠を実現できた。支援の間を縫って外部に講師を依頼して学ぶ意欲とともに知識を吸収し支援の質を向上させた。

令和7年度は27回のセンター別研修を実施した。

✿2025/8/20の研修について

事前に役所や学校にチラシや広報掲載などで呼びかけ、市のホールで開催して一般の参加者までも巻き込んだ。この「睡眠リズム障害」のテーマは社会的な着眼点に優れ、実験的かつ大規模な研修である。反響が高く、マスコミにも注目されその後NHKでは1時間番組が組まれ、研修に登壇した研究者や当事者団体のかたが出演した。また、厚生労働省のHPでも「睡眠リズム障害」のページを新設をして現在に至っている。



④ ボランティア研修

令和6年に引き続き社内コーディネーターが運営を工夫して日曜日に研修を実施している。ボランティアに呼びかけ案内をおこない、一方通行にならないようなテーマ別グループトークと全体への発表によるフィードバック、研修後のレポートも作成して全ボランティアに発信した。ボランティアは社会人や学生なので研修の実施回数は多くできないという制約があるが、密度の高い内容でアンケートでも参加者の満足度は高得点だった。

⑤ 外部研修

外部研修は県等の無料の場合に社内に案内していたが、大規模で参加費が必要かつ遠方での宿泊・交通費を伴う研修に一定数の学習支援員が参加することができるようになり令和7年度で3年目を迎えた。全国的な研修は著名な講師陣による講演がテーマごとに開かれ、豊富な著書や教材に触れ、全国から来た参加者と交流することによって、知識に加え体験が参加者意欲を高めることになり、参加できなかった支援員にも研修報告がなされることで、よい影響が伝播した。

外部研修で知りえた情報で講師を招いて支援員全体研修を実施することができたことも大きな収穫だった。

⑥ まとめ

当法人では、3年間にわたり研修の助成をいただいた。その成果として、各センター、各支援員が主体的に研修を組み立て、学びに向かう組織としての基盤を作ることができた。特に今年度センター別研修を内部だけでなく、外部の人も含めて発信する形で研修を組み立てる力が付いたと考えている。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

「2. 実施した奨学活動の詳細」「3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等」
ご参照ください。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

学習支援活動に携わる専門職員、学習支援員、指導員、ボランティアという多層なスタッフには、学習知識に加え、家庭的な困難を抱える子どもたちが内包する様々な困難に向かい合う幅広い知識・技量・教養や人間的豊かさが求められる。子どもたちの困難の背景には、貧困を生み出している大きな社会的要因とそれに規定されて屈折する家庭的環境やその影響で形成される消極性や自己否定感が存在するからである。こうした複雑な事情を抱える子どもたちの自己肯定感を高め、未来を切り開ける希望を抱かせるには、学習的知識・スキルや支援者の経験的知識に加え、幅広い社会認識力、人間理解力、情報収集力が必要とされる。そういった力は、支援者の全国的交流や専門家による専門的知見やアドバイスに幅広く接する中で形成される。

本助成は、法人主体で実施される各種研修に加えて、参加費が必要とされる専門的研修会や交通費・宿泊を伴う全国規模の研修などに支援員が参加できる機会を提供することに活用されている。こういった研修は、ある分野の専門家による講演や豊富な資料・教材・情報が獲得できる機会である。同時に同じような支援事業に従事する全国の仲間との交流、経験伝達によって、支援活動への誇りや自信を高める機会となっている。ここで得られた経験・知識は、法人内部の各種会議・研修会で活用されていることによって、助成金の活用は、組織全体の質向上に貢献できている。

当法人の経常資源からすれば、会費・交通費・宿泊費を伴う外部研修への参加は、支援者個人の負担に依存せざるをえないことになるが、助成金の活用は、支援員の研修意欲を高め、組織全体の専門職性を磨き上げる契機を提供できている。こうした研修事業を継続・拡大できている点において、本法人の支援活動は、単なる学習塾、あるいは、居場所提供活動とは異なり、社会的に有意なものと言えよう。

山口 和孝（埼玉大学名誉教授）